

県立病院ニュース

第3号

平成18年6月発行

発行 福島県病院局改革グループ

<http://www.pref.fukushima.jp/kenbyou/index.htm>

県立病院のみらい

平成18年度『行動指針』について

喜多方病院

今回は、喜多方病院から『行動指針』についてご紹介いたします。

当院では、平成12年度に「患者様中心の病院づくり」を目指し、人権と安心を最優先した医療サービスを提供することなど、3項目からなる病院の基本理念を策定し、会津西北部唯一の公的病院として、患者様中心の病院づくりと地域医療のサービス向上に努めています。



喜多方病院

基本理念を実現するため、職員がより分かり易く、同じ意識を持って取り組めるよう具体的な目標・指針を職員提案により募集し、健全化会議において選定・決定し、『行動指針』として病院全体で目標達成に向けて取り組んでいます。

健全化会議において、応募された作品を経営改善、サービス・接遇向上、医療事故防止、その他一般などテーマ別に分類し、毎年4点程度を選定し、『行動指針』として決定します。そして、入選者には全体会という場で院長から記念品（健全化会議のメンバーで図書カードを準備している。）が手渡されます。

『行動指針』は、基本理念と併せて院内に掲示するとともに、名札サイズにコピーしたものを全職員に配付し、常に携帯できるようにしています。

綴りを紐解くほどではありませんが、始まりは平成14年度からのようですので、今年で5年目を迎えたこととなります。

18年度行動指針は、18年1月に約3週間の公募期間を設け、1人2つ以内として募集しました。今回は医師、医療技師、看護技師そして事務職員それぞれの視線で、日頃感じている事やある場面で気づいた事柄からの提案がありました。

最後になりましたが、応募作品全41点から選定された今年度の『行動指針』について紹介します。

平成18年度『行動指針』

1 前と同じやり方でいいの？

何事にも繋がる業務改善の基本的視点であり、前例にとらわれない創意工夫が大切です。

2 目配り・気配り・転倒防止！

当院のヒヤリハットの最多事例であり、少しでも減らすことが課題です。

3 「ここに来てよかった。」と言ってもらえる病院に！

いつでも患者様の目線で考えるサービス提供の心構えが重要です。

4 5分前の行動を心がけよう。

どんなときでも気持ちの余裕をもって行動することが未然の事故防止に役立ちます。



スーザンはなぜ死んだのか・・・



事故は思いがけないことから起こります。これは40年ほど前に私がアメリカに留学し、或るウィルス研究室にいたときの話しです。ウィルス実験を行う前後には実験台の上を丁寧にアルコールで消毒するのがきまりとなっています。私のいた研究室の上司のM博士は既にアメリカに10年ほどいた日本人で、非常に几帳面な人でした。その日も私の実験台を見て消毒用のアルコールの瓶を取り上げ、これはメタノールかエタノールかと英語で尋ねました。私はM博士が日本人同士なのに日本語で話しかけないのが気に食わなくて、「消毒用アルコールです」と日本語で答えました。彼はまたメタノールかエタノールかを書いておくようにと英語で云って、瓶の栓をぬいて匂いをかいだりしています。それはメタノールだったのですが、私は内心（メタノールもエタノールも消毒効果は同じなのにいちいち細かいことをいう）と思い、その瓶にはalcohol disinfectant(消毒用アルコール)とラベルしておきました。その瓶のアルコールを使うのは私とスーザンという黒人の実験助手の女性だけだったのです。

次の日スーザンが腹痛がするといって早退しました。この人はいろいろな理由をつけてさぼる癖があるので、不満に思いながら私は自分で実験台を消毒しました。その時瓶のアルコールの量が異常に少ないのに気づいてメタノールを注ぎ足しておきました。夕方、M博士が来てスーザンが死亡して解剖を受けていると云いました。この研究室で悪性のウィルスに感染して死亡したのではないかと、遺族から訴えられたというのです。さらに2時間ほどして、M博士がスーザンの死因はメタノール急性中毒だったというのです。スーザンは平素からアル中気味で試薬用のメタノールを盗み飲みしていたらしいと云うのです。「メタノールは飲んだら毒だという事くらい知らなかったのかなあ」M博士は日本語で呆れたように言いました。たしかにその研究所ではエタノールの瓶は鍵のかかった戸棚に保管されていて、薬剤師に鍵を開けてもらわないと取り出せないのです。その代わりメタノールは大きな茶色の瓶に入っていて研究室の片隅に無造作に置いてありました。

スーザンが消毒用のメタノールを飲んだという確証はありませんが、私はあの瓶にはっきりとメタノール(methanol)とラベルしておかなかったことを今でも悔やんでいます。私としては消毒用のアルコールを飲む人がいるとは思わなかったのです。しかし、事故は思わぬところで起こります。まさか、と思うことが起こらぬように、医薬品のラベルはしっかりと書いておきましょう。



～ご意見・ご感想をお寄せください～

親切 信頼 進歩